



## 「休憩時間」認識の“ゆらぎ”

### 県校長会との話し合い

愛教労と県校長会との話し合い（12月13日）の中で最も大きな争点だったのが、休憩時間をめぐり認識です。校長会との間では、「児童生徒が学校にいる間、本来の休憩は取りづらい」という合意がすでに20年以上前になされています。この合意に基づき、やむを得ず休憩が取れなかった場合には勤務時間の割り振り変更を行うなど、労使双方が納得した対応が現場では取られてきました。



ところがこのたびの話し合いでは、校長会側から合意内容に反すると受け取れるような主張が繰り返されました。休憩が取りづらいという実態は当時とほとんど変わっていないのに、「休憩は取ってもらわないといけない」という見解に固執し、やむを得ず休憩が取れない場合があることをすんなりと認めようとしませんでした。

前提となる事実が変わっていないのに主張だけ変えることは許されません。校長会には、合意を誠実に履行し、労使双方が納得できる対応を続けていくよう今後も求めていきたいと思えます。[ 403号に続く………… ]



副議長：加藤

愛知県における任意団体等による  
「名簿・金品授受」  
に関するアンケートはこちら

